

例年と比べると今年は少し遅いか?などと案じていた長谷の山桜の開花。3月末頃からそろそろ開花情報、と思いきや、4月の声を聞くと同時に気温があがり一気に満開へ。週末の雨が花散らしの雨とならないように、と念じつつ4日(土)に長谷へ行ってきました。

1. 今年の山桜は、自主見学!・・・足の向くままに長谷の春を堪能。

この3月、北九州市から大分へ連絡する東九州道が相次いで区間開業し、筆者居住の北九州市と長谷との時間距離がかなり短縮されました。前日来の雨はあがるも、どんよりとした曇天の4日(土)午前、その時間短縮効果を実感しながら高速道ドライブで長谷へ。

その途中、別府ICを過ぎ高崎山裏手へと抜ける区間で、霧の流れる山腹に多くの満開山桜を発見。この時期、いやこの日ならではの、見事な山桜景に圧倒されました。さらに、米良ICを降りてからの国道沿いや、犬飼ICから長谷トンネルまでの川沿いの県道横手にも山桜群が散見され、いやがうえにも長谷で待つ山桜への期待感が膨らんだ道中でした。

さて本命の長谷地区内の山桜は如何ばかりか、と言うと、さすがに少し盛りを過ぎてはいましたが、その存在感、その豪華絢爛さは健在で、松巖寺裏山、鉄塔周辺山腹、成瀬谷山腹、そして栗ヶ畑・奥の院と巡って、里山を彩る山桜の薄桃色花と薄紅葉、その周囲の樹木に芽吹く薄黄緑葉の輝きのハーモニーを堪能しました。

特に、県道を右折して栗ヶ畑地区に入り奥の院に至るまでの経路では、随所に咲き誇る満開ソメイヨシノの花吹雪を浴びながら、また、民家庭先で咲き誇る花桃やレンギョウなどの鮮やかな彩りを愛でながら谷奥への道筋をたどり、屏風絵のごとく山腹を覆い尽くす奥の院の山桜群にたどりつくその行程を、この時期だけの贅沢として存分に楽しむことができました。



松巖寺裏山の山桜



栗ヶ畑・奥の院の山桜



栗ヶ畑の里山風景

2. 「ながたに推進協議会」の本拠を拝見・・・地域づくりの胎動。

長谷地区に到達していつもの県道をたどる道筋の、ちょうど黒松センターの前で、「柴北川を愛する会」の前会長大塚さんに遭遇しました。氏は、会長離職後は自宅での療養生活を続けておられ、田植え等の行事でもお会いする機会が減っていましたが、かつてのお元気が戻ったようなご様子で、旧小学校校庭のソメイヨシノ並木を見物して散策しながら戻る途中とのことでした。

そのソメイヨシノが咲き誇る旧小学校校庭で、「愛する会」の渡邊事務局長にお会いしました。2月の竹林整備以降の地区の動向、そして何より、3/25に創設されたばかりの「ながたに推進協議会」（以降、「推進協議会」）の動向について話を伺い、折角だからと、体育館階下の旧長谷幼稚園施設を間借りした「推進協議会」の本拠施設を少し拝見させていただきました。

施設内は幼稚園時代の用具等がまだ残ったままで、今後少しずつ「推進協議会」本拠施設としての体裁が整っていくと思われませんが、予想以上に広い空間があり、今後、長谷の皆さんの活動の拠点としてまた交流の場として、多くの住民から愛される空間となっていくのだろうと期待できる施設状況でした。

今後、この「推進協議会」の活動と、前身の開発協議会の活動や、現在も継続する区長会等の種々の地区活動とをどうすり合わせていくのかなど、課題がまだまだ山積みされているとのこと。 “その調整作業とあわせて、これからの長谷の方向性を見定める地域ビジョン作りなども必要ですね。そのあたりの検討作業では当会も協力できますよ。” などと渡邊さんと話し合いました。

隣接する旧小学校施設（2階建て校舎）では、施設の改修工事が進行中。今月下旬から、千歳町の社会福祉法人により社会復帰を目指す人達の宿泊兼訓練施設としての運用が始まるようです。

折からの、国をあげての地方創生の動きと符牒をあわせるように、旧小学校施設を起点として長谷の5年後10年後を形作る地域づくりが胎動しているようです。

以上、自主見学ながら、ご多忙の渡邊さんを駆り出してご迷惑をおかけした、そのお詫びを兼ねて事務局から報告させていただきました。

（文責：波木）



黒松センターで大塚さんと



旧小学校校庭で渡邊さんと



「ながたに推進協議会」の本拠施設（体育館1階部の旧長谷幼稚園）